

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(12月11日～12月17日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。12月11日から12月17日までに8406件の検査がおこなわれました。基準を超えたものは10件ありました。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(12月11日～12月17日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島県	農産物	149	0	—	栃木県	農産物	32	0	—
	畜産物	453	0	—		畜産物	708	0	—
	水産物	228	0	—		水産物	1	0	—
	牛乳乳児用食品	7	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	23	8	イノシシ		野生鳥獣肉	127	2	イノシシ
	飲料水、その他	55	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮城県	農産物	74	0	—	群馬県	農産物	20	0	—
	畜産物	309	0	—		畜産物	951	0	—
	水産物	61	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	0	0	—		牛乳乳児用食品	5	0	—
	野生鳥獣肉	0	6	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	1	0	—
茨城県	農産物	26	0	—	千葉県	農産物	9	0	—
	畜産物	692	0	—		畜産物	134	0	—
	水産物	12	0	—		水産物	1	0	—
	牛乳乳児用食品	4	0	—		牛乳乳児用食品	0	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	0	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2017年 5月28日	95.1%	4.9%	0.0%
2017年 6月 4日	97.8%	2.2%	0.0%
2017年 6月11日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年 6月18日	97.8%	2.2%	0.0%
2017年 6月25日	99.4%	0.6%	0.0%
2017年 7月 2日	98.5%	1.5%	0.0%
2017年 7月 9日	99.1%	0.9%	0.0%
2017年 7月16日	97.7%	2.3%	0.0%
2017年 7月23日	98.3%	2.7%	0.0%
2017年 8月 6日	100%	0.0%	0.0%

2017年 8月13日	100%	0.0%	0.0%
2017年 8月27日	98.8%	1.2%	0.0%
2017年 9月 3日	97.8%	2.2%	0.0%
2017年 9月10日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月17日	100%	0.0%	0.0%
2017年 9月24日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 1日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月 8日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年10月15日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月22日	100%	0.0%	0.0%
2017年10月29日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月 5日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月12日	100%	0.0%	0.0%
2017年11月19日	99.3%	0.7%	0.0%
2017年11月26日	98.9%	1.1%	0.0%
2017年12月 3日	97.6%	2.4%	0.0%
2017年12月10日	99.0%	1.0%	0.0%
2017年12月17日	99.6%	0.4%	0.0%
2016年6月平均	(95.0%)	(5.0%)	(0.0%)

基準を超えた沿岸魚はみつきりませんでした。これで129週連続(約2.5年)となります。福島県の225検体の水産物が検査されました。今週の結果で、放射性セシウムが検出された魚介類は広野町のシロメバル(6 ベクレル/キログラム)のみでした。

(2)検査について基準を超えたものについて

①栃木県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア.栃木県茂木町:イノシシ(130 ベクレル/キログラム)

イ.栃木県那珂川町:イノシシ(120 ベクレル/キログラム)

栃木県で捕獲された野生鳥獣については、すでに出荷制限措置がとられているため、市中には出回っていません。

②福島県で捕獲された野生鳥獣について基準値を超える放射性セシウムが検出された旨、公表されました。

ア.福島県須賀川市:イノシシ(110 ベクレル/キログラム)

イ.福島県田村市:イノシシ(700,730,830,11000 ベクレル/キログラム)

ウ.福島県石川町:イノシシ(300 ベクレル/キログラム)

エ.福島県磐梯町:イノシシ(180 ベクレル/キログラム)

オ.福島県平田村:イノシシ(290 ベクレル/キログラム)

福島県で捕獲された野生鳥獣については、すでに出荷制限措置がとられているため、市中には出回っていません。

(3)京都の空間線量(12月11日～12月17日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.038～0.041 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.045～0.049 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.11～0.12 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.14～0.15 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の10分の1くらいになってきました。しかし0.1 マイクロシーベルト/1時間を下回るところまで来たのは今回が初めてです。過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

3. 関連情報

(1) 政府が風評問題特化『戦略』放射線知識、県産食品、観光誘客(福島民友ニュースより)

政府は12日、東京電力福島第1原発事故による本県への風評被害を払拭(ふっしょく)するための「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」を策定した。政府が風評問題に特化した戦略を策定するのは初めて。依然として風評問題が解決しない現状を踏まえ、「知ってもらう」「食べてもらう」「来ってもらう」の三つの視点で伝える対象や内容を絞り、複数のメディアを活用した情報発信力を強化する。

戦略は関係府省庁が連携して取り組むための統一的な方向性を示すもので、大学教授や医療関係者などの意見を参考にした。復興庁は年度内に戦略に基づく新しいパンフレットを作り、関係府省庁の取り組みを促す方針だ。

「知ってもらう」では、避難児童へのいじめが各地で発覚したことを受け、教職員や児童、生徒に対する放射線教育の充実を図る。教諭向けの研修会の回数を増やすほか、「日常生活で放射線被ばくはゼロにはできない」「放射線はうつらない」といった基本的な知識を理解してもらうため、小、中学、高校で使う副読本を本年度中にも改訂する。

「食べてもらう」では、小売り・流通業者や在京大使館などに対し、県産農林水産物の魅力やおいしさを第一に、厳格な放射性物質検査の実施なども発信。外交ルートなどを通じ、輸入規制の緩和・撤廃に向けた働き掛けにも継続して取り組む。

観光がメインの「来ってもらう」では、空間放射線量が全国や海外の主要都市とほぼ同水準であることを分かりやすく説明。修学旅行生や外国人観光客の呼び込みを後押しする。また、風評問題に継続して取り組むため、関係府省庁の対策を検証する体制も整備する。

戦略は12日の「原子力災害による風評被害を含む影響への対策タスクフォース(作業チーム)」で決定。吉野正芳復興相(衆院福島5区)は特に放射線教育について「副読本の作成にとどまらず、実際に児童、生徒や教師、保護者にも伝わる仕組みづくりを併せて行う」と述べ、関係府省庁に教育現場での着実な実施を指示した。

以上